

下を流れているのが県境となっている座頭沢である。

8:50沢に入る。目前にF1 2m、F2 3mの2つの滝が見えている。右岸をへつって取り付き、直登してぬける。ちょっと歩くとF3 8m。西さんが偵察がてら下段5mくらい直登するが、滑りやすいので、右岸を高巻きすることにした。

しばらくゴーロ状とナメを繰り返しながら進む。9:50左右から支沢が合流している所で休憩。このあたりで右岸に踏跡のあるのが見えた。

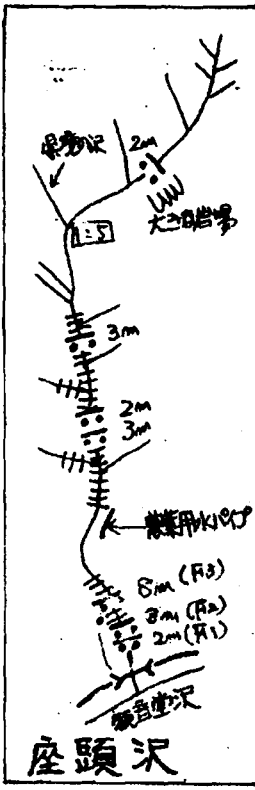
2~3mの小滝をいくつか越えると二俣となる。県境は左の沢ぞいにのびているのだが、私達は水量の多い右の沢に入った。

10:10左岸に大きな岩壁がそそり立っている所に来た。下部の方は石室状になっていて、ビバークもできそうだ。またこの付近にはカモシカの足跡が無数についていた。兩岸にはミズナ、シトキ、アイコ、ウルイなどの山菜が豊富なのだが、今は時期的に遅い。

しだいに狭まる沢筋を倒木をまたぎながらつめる。アイコのトゲに傷まされながら、11:00源頭で昼食。あとは左側に見える657mピークを目印に藪をこぎ、10分程で尾根に出る。このあたりまで昔は人が入っていたのか、ところどころに踏跡が残っている。

初めに滝が連続したので、最後まで大きな滝を期待したのだが、F3 8mがこの沢で最も大きな滝であった。

【タイム】 出合(8:50)→大岩(10:10)→寝籠(11:40)

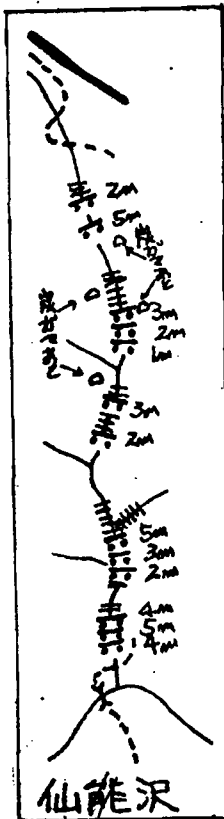


仙能沢(下降)

1983年5月21日

15:30仙能沢の下降を開始する。すぐに小滝が出てきた。斜瀑であり、フリクションがよくきくうえ、沢幅が狭いため岸の樹木の枝を利用できるので、クライミングダウンの必要もなく下る。

兩岸には次々と炭焼き釜跡が出てくる。この沢ぞいは炭焼きの盛んな所だったの



だろう。

シドキやウルイといった山菜を摘みながらゆっくりと下ってゆき、16:25観音堂沢本流へと出た。本流に出る直前にかかる3つの滝の最下段のものだけは下ることができず、左岸を捲く。全体としては平凡な沢であった。 (記・2)

[タイム] 下降開始(15:30)→下降終了(16:25)

サクラバシ沢

1983年10月15日

現在地を確認して下降にかかる。5分程で水が出てきた。クソハナ沢とちがってヤブはひどくなく、楽な下降となった。やがてナメが出てくる。途中に小滝が3つあるだけで、ナメの中をスタスタ歩く感じでサクラバシに到着。一応橋の下も下降して観音堂沢まで下ってみたら、こちらにはまず3m、続いて2.5mが2つ、そして最後に6m斜瀑と小さいが滝が続いていた。

(1)

[タイム] 下降開始(13:25)→橋(14:00)

カイトキ沢

1983年10月23日

旧観音堂集落のすぐ上流がカイトキ沢である。観音堂沢本流に15mの斜瀑をかけるが、右岸をブッシュづたいに登ることができる。その先小滝とF2 3mも何なく登れる。S字状のカーブとなったナメを過ぎると橋である。橋のすぐ上のナメと小滝を越えた所に材木で造られた取水用の堰がある。旧観音堂集落のあたりに広がるたんぼに水を引くためのものであろう。

この先小滝を越え、左岸から7mの滝となって小沢が合流すると、兩岸が狭まってV字状の流れとなる。二俣まで小滝がいくつか出てくるが、歩きやすくペースも